大阪 歯科
保険医新聞
9/15
2016年第1245号
（毎月5、15、25日発行）
大阪府歯科保険医協会
発行人　志岐　敬
大阪市浪速区幸町1-2-33
電話(06)6568-7731(代表)
http://osk-net.org/
●定価・年間10,000円　月1,000円
●1977年5月23日第三種郵便物認可

土建国家が招いた財政赤字

株高が収束し、「アベノミクス」の行き詰まりが顕著だ。国民の暮らしぶりは上向かず、財政は悪化の一途をたどっている。社会保障費を削り、大企業向けの経済対策に巨額の予算を投じる経済・財政政策が機能不全に陥っている。病巣はどこにあるのか。財政政策と社会保障財源のあり方について、鶴田廣巳関西大学教授（財政学）にインタビューし、日本が進むべき道を探った。

（文責・新聞部）

基軸　財政政策と社会保障の行方 ❶
関西大学商学部教授・鶴田廣巳氏に聞く

関西大学商学部教授
鶴田廣巳氏

つるた・ひろみ　1947年、福岡県生まれ。1976年、京都大学大学院経済学研究科博士課程単位修得。大阪経済大学経済学部教授を経て、関西大学商学部教授。近著に「現代租税の理論と思想」（共著）など。

――「アベノミクス」の現状をどう見るか。

安倍首相は、「アベノミクスは道半ば」と弁明しているが、3年半経っても2%のインフレ目標は達成できず、国内総生産（GDP）はゼロ成長。労働者の賃金は下落基調だ。日銀による金融政策も手詰まりで、もはや「アベノミクス」は破たんしている。

8月に事業規模28兆円の経済対策を打ち出したが、保育士の処遇改善や給付型奨学金などの「1億総活躍社会実現」政策は新たな消費を促すほどのインパクトはない。リニア新幹線の整備に象徴されるように旧来型の大型公共事業頼みの政策だ。

結局は環境を破壊し、借金を増やし、財政危機を深刻化させることになるだろう。

1050兆

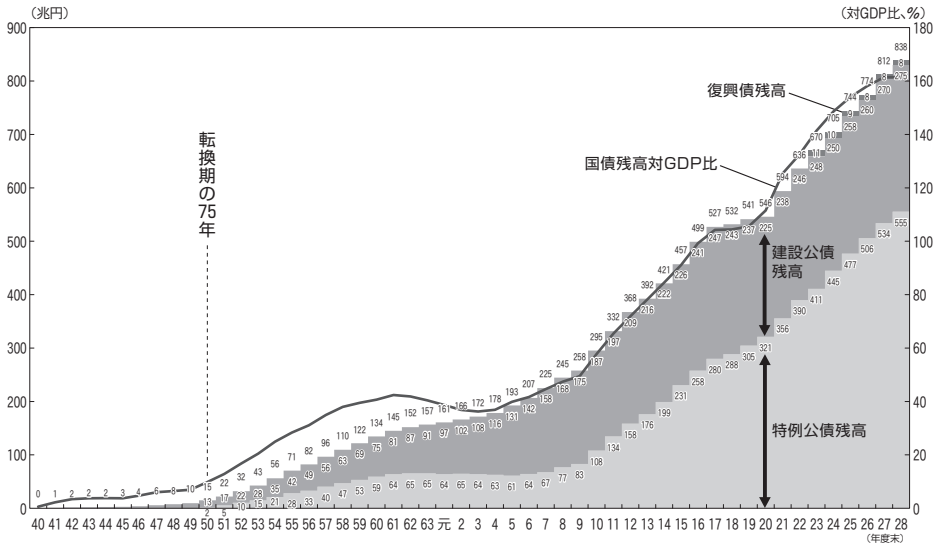
――財政の先行きが不安視されている。

日本の財政は今、国と地方合わせて1050兆円を上回る借金を抱えている。政権与党や財務省は、「社会保障費は毎年1兆円増加し、このままでは財政破たんする。だから消費税を増税し、社会保障費を削らなければならない」と強調し、財政「改革」を実行した。

しかし、実際は増税して社会保障費を削減しても、財政は悪化している。

では、どう立て直せば良いのか。財政政策を歴史的に検証しないといけない。

国債残高の累積（財務省資料をもとに作成）



財政赤字　国や地方自治体の歳出が歳入を上回っていること。また、その赤字の累積額。不足分は公債（国債・地方債）を発行して補う。2016年度（28年度）の見込額は838兆円。国債や借入金、政府短期証券をあわせた「国の借金」の残高が財務省によると2015年度末時点で1049兆3661億円。

特例公債　国の歳出が歳入を超えた額に対して、補填目的で発行する国債。赤字国債と呼ぶことが多い。

転換期

――70年代以来の課題とは。

高度経済成長期、政府は公共投資を中心に財政支出を急激に増やしてきた。61～75年度の経済成長に伴う自然増収額は国税19・5兆円、地方税9・5兆円にも及ぶ（同期間の国税および地方税収入のそれぞれ19・8%、18・4%）。当時は増収分の8割以上を歳出に回し、地方財政も動員して国策として地域開発へ巨費を投じた。それでも予算が足りず、財政投融資として郵便貯金や公的年金などの資金を大規模に「活用」して公共事業を推進。まさに土建国家の様相を示した。

国民の生活は年功賃金・終身雇用の日本型経営が支え、公共事業が地方の雇用を保障。政府による社会保障は、企業福祉と公共事業の網からこぼれ落ちてくる貧困層に最小限の福祉を提供するだけとなり、安上がりの「生活保障」システムがつくられた。

73年は福祉元年と言われ、本格的に福祉国家へ方向転換する期待があったが、成長が止まってもなお政府は土建国家の道を選んだ。高度成長が止まった75年が戦後の転換期だった。

40年が経った今、この矛盾がますます深まり、財政とともに「生活保障」システムが危機にひんしている。

（つづく）

水口氏の講演が冊子に

今号に同封

水口俊介氏（東京医科歯科大学大学院高齢者歯科分野教授）の「咀嚼」と「健康長寿」の関わりをテーマにした講演がパンフになった。今号に同封し全会員に1冊届ける。講演は「保険でよい歯科医療を大阪連絡会」が2015年11月に開催した。

8月度
生涯研修講座

顎堤吸収対応の義歯解説

加藤氏　精密・広範囲の印象を

講演する加藤氏＝8月28日、M&Dホール

臨床・学術部は、8月28日、M&Dホールで、横浜市開業の加藤武彦氏を講師に、8月度生涯研修「デンチャースペース義歯の実際～顎堤の痩せた高齢者に安定した義歯を～」を開き、117人が参加した。

高齢化する社会状況に伴い、無歯顎患者の顎堤は吸収が進み平坦化。さらに上顎ではフラビーガムが形成され、より重症化する傾向にある。患者自身が認知症を発症していることも重症化させる原因の一端となっている。このような重症化した無歯顎症例では、従来、大学で習得する歯槽頂間線法則に則った歯列配列では対応しきれないことがしばしばある。

加藤氏が提唱する「デンチャースペース義歯」では、もともと天然歯牙のあった位置に歯列を回復するよう配置する。そのため、無歯顎患者は違和感なく咬合咀嚼能力が回復することができる。

「デンチャースペース義歯」は舌筋や口輪筋・頬筋・咬筋などの口腔周辺筋群によって義歯を安定させるため、精密かつ広範囲での印象が必要と解説した。

咬合採得においてはパイロットデンチャーの応用が有効であること。早期のソフトシリコンを用いたリベースをはじめ咬合調整の方法やテストフードを用いた調整方法が有効であることなど、臨床経験40年の数々の症例を交えて解説した。

大谷学氏（東大阪市開業）と山本洋一技工士が「デンチャースペース義歯」への取り組みについても報告した。

（港区・平尾清司）

今日の数字

101兆4707億円

2017年度予算の各省庁の概算要求総額。大型開発を増やし、社会保障費を抑制。

歯界

支払基金へレセプトを出しての帰路、大阪駅へ向かって歩いていると、前方から歩きスマホが何人もやってくる。

私はマラドーナが何人もの相手ディフェンダーをかわしてドリブル突破した場面をイメージして身構えた。何故か早い目の退避行動はかえって衝突となる。間近に引き付けて切れ味鋭く、避けると相手は、衝突寸前だったことに気も付かずまだスマホを続けている。

スマホはパソコンや電話、メモ帳、地図、カメラなどの日常生活に役立つ盛りだくさんの機能を備えていて便利だ。しかし、毎日数時間もゲームに触れていると、脱出困難になる。スマホ依存症などという病名を新設すると保険組合はどう対応するだろう。

私は情報を寡占する傲慢なマスコミに敵意を燃やし、対抗策として民衆の掌中にあるSNSに期待をしていた。だが、今やSNSは資本の草刈り場で、大衆はポケモンのバーチャルな生物に変身したかのようだ。